

AIMaP 研究集会等実施報告書

(Part 1/4) 名称・重点テーマ・キーワード等

項目	内容
名称	異分野連携のノウハウ共有と水平展開を目指すワークショップ
採択番号	2017K001
重点テーマ	異分野連携
キーワード	理論科学、数学、分野横断、産学連携
主催機関	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所
運営責任者	福本 康秀・九州大学マス・フォア・インダストリ研究所・所長・教授
開催日時(開始)	2017年12月26日 10:25
開催日時(終了)	2017年12月26日 17:30
開催場所	日本橋ライフサイエンスビルディング 9階913会議室

(Part 2/4) 最終プログラム・参加者数

項目	内容
最終 プログラム	<p>10:25 開会</p> <p>10:30-11:30 『異分野連携ノウハウ』</p> <p>太田 信 (東北大学 流体科学研究所)</p> <p>「血管モデル開発とニーズ」</p> <p>西井 龍映 (九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所)</p> <p>「異分野と統計学の相互貢献」</p> <p>11:30-12:30 『スタディグループノウハウ』</p> <p>儀我 美一 (東京大学 大学院数理科学研究科)</p> <p>「社会数理実践研究の現状」</p> <p>鈴木 貴 (大阪大学 数理・データ科学教育研究センター)</p> <p>「MMDSにおけるスタディーグループの取組」</p> <p>12:45-13:45 ランチタイムミーティング</p> <p>14:00-15:00 『企業連携ノウハウ』</p> <p>吉良 知文 (群馬大学 社会情報学部)</p> <p>穴井 宏和 ((株)富士通研究所 人工知能研究所)</p> <p>「ソーシャル数理のアプローチ：大学と企業そして現場との協働」</p> <p>15:00-15:30 『共同研究ノウハウ』</p> <p>小松崎 民樹 (北海道大学 電子科学研究所)</p> <p>「北大と日立基礎研センタ連携による新概念コンピューティングの理論」</p> <p>16:00-17:00 パネルディスカッション</p> <p>講演者全員</p> <p>17:30- 情報交換会 (会費制)</p>
参加者数	<p>数学・数理科学 29 人, 諸科学: 2 人, 産業界: 1 人, その他: 1 人</p>

(Part 3/4) 論点・現状・今後の展開

項目	内容
当日の論点	AIMaP 事業に取り組む運営委員や協力拠点の関係者が顔を合わせて、数学・数理学と異分野連携のノウハウを共有し討議を行うことで今後の活動に役立てることを目標とする。特に、異分野連携の経験が豊富な数学・数理学研究者やそのパートナーをお招きして、公的な場では聞けないような苦労話、工夫された点、成功のための秘訣などを披露していただく。また、異分野連携に関する情報共有・意見交換をテーマとしたパネルディスカッションを開催し今後の議論の端緒とする。
研究の現状と課題（既にできていること、できていないことの切り分け）	各 AIMaP 運営拠点はこれまで数学・数理学と異分野連携のノウハウを蓄積してきたにもかかわらず、その知識・経験を共有する機会はこれまで少なかった。今回の研究会をきっかけに相互交流とそこから得られる新たな視点の獲得を目指したい。
新たに明らかになった課題、今後解決すべきこと	異分野との連携に関するご苦労や工夫を惜しみなく披露していただき共有できる貴重な機会となった。事前に行ったアンケートとそれをまとめた資料により参加者の問題意識のベースがそろえられたこともあり、非常に有意義な知見の共有と意見交換ができた。様々な数学界以外の分野や産業における多様な課題に対しての数理的手段による解決方法を提案することなどについてランチタイムや交流会の時間も活用して十分に議論することができた。AIMaP 事業の目的と趣旨にそったと課題解決の方法を多くの関係者が共有でき、何かあれば頼れるミートアップの機会ともなりたいへん意義深い日となった。 パネルディスカッションでは ・ 数学はゼロベースから考え直す必要のある根源的な問題解決には向いており、産学連携を進める際にもそのような方針で行うべき

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異分野連携のテーマ設定および協力関係維持には時間と労力をある程度かけるべきで、実現に向けた強い意志を持って臨むべき。そのような取り組むためのヘッドクォーターとなる機関を設置するのも有用かもしれない ・ 良い協力テーマ策定のために「市場調査」が必要なのではないか。状況によっては調査会社等を使うのも有用 <p>などといった意見が得られた。</p>
<p>今後の展開・フォローアップ</p>	<p>さまざまな分野の学生・研究者に今後の発展に資することのできる場を提供することができ、AIMaPの目的に合致した内容となった。今後はこのような知見を活かしさらにAIMaP事業を推進することとしたい。</p>

(Part 4/4) 写真

項目	内容
添付写真 1	
添付写真 2	
添付写真 3	